

守り、創り、育てよう
ふるさと島根の景観

第12回 しまね景観賞



島 根 県

—島根県立美術館収蔵作品にみる島根の景観—
表紙：川瀬巴水／「日本風景選集 出雲美保ヶ関の朝」

はじめに



島根県知事 **澄田信義**

私たちのふるさと島根では、美しい自然の景観、人々の営みから創り出された農山漁村の景観、先人の知恵が活かされた歴史的な景観など、それぞれの地域で特色ある景観が生まれ、かたち作られています。

こうした、優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り、育てることを目的として、平成3年に「ふるさと島根の景観づくり条例」を制定し、様々な取組みを行ってきました。

第12回を迎える「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献している建造物等を表彰し、快適で文化の薫り高いふるさと島根の景観を形成していくことを目的として実施してきました。今回を含め128件が受賞し、私たちの周りにも、ゆとりや豊かさを実感できる魅力ある景観が数多く形成され、多くの県民の皆様の高い関心を寄せていただいております。

昨年12月には、良好な景観は国民共通の資産であるという基本理念を持つ景観法が施行され、住民、事業者、行政が一体となって地域における良好な景観の維持・保全に取り組む必要性や手法等が示されたところです。

今後とも、本県の魅力ある景観の保全・創造への一助となる取組みを進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

終わりに、受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、選定に当たり御尽力いただきました「しまね景観賞審査委員」の皆様や、応募をいただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

平成17年1月

選考総評



しまね景観賞審査委員会
委員長 **藤岡大拙**

第12回目を迎えた「しまね景観賞」の応募総数は、126件にも及び、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、書類審査による第1次審査において、まず34物件を選定し、第2次審査では、現地審査と最終審査とを行い、次の9件の建築物や活動等を選定した。

優秀賞は3件である。「公共建築物部門」から選ばれた『仁摩町生涯学習センター・仁摩図書館』は、リズムカルな建築がさわやかな空間を創りだしている点が、『出雲織・のき白鳥の里』は、安来平野の田園地帯の景観に溶け込んでいる点が評価された。「民間建築物部門」からは、新築でありながら古材を多用することで周りの景色に合う鄙びた雰囲気演出している『ブラハウスワークステーション』が選ばれた。

奨励賞は6件である。「まち・みどり部門」からは、『鷺浦の集落』と『青木にじが丘』が選ばれた。前者は昔からの味わいのある家並みが保持されている点が、後者は団地造成に当たり自然の地形と樹木が活かされている点が評価された。「土木施設部門」からは、繊細で控えめな雰囲気を醸し出している『信喜橋』、周辺景観とマッチした『江津道路』、宍道湖の本来の姿を取り戻した『宍道湖ネイチャーランド湖岸堤』が選ばれた。「公共建築物部門」から選ばれた『海辺の多伎図書館』は、背景の海に似合うまとまりある景観を形成している点が評価されたものである。

今後も、さらに多くの県民、事業者の皆さんが、よりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれることを期待してやまない。

優秀賞

仁摩町生涯学習センター・ 仁摩図書館

/仁摩町

所在地 遼摩郡仁摩町大字仁万町

事業主体 仁摩町

設計者 (株)寺本建築・都市研究所

施工者 (株)青木組

概要 鉄筋コンクリート造 一部木造 平屋建
建築面積 1,195.86㎡
延床面積 1,062.25㎡
完成年月 平成16年6月



この建物は、巨大砂時計で知られる仁摩町に建つ、主に図書館を中心とした生涯学習センターで、周囲は役場や中央公民館などの公共建築や民家が立ち並ぶこの町の中心部といった場所にある。

リズムカルな木造架構に支えられた深い軒と大屋根が大変印象的で、コンクリート打ちっ放しや、広く開けられた開口部のガラスと相まって、力強さと共に実に軽快感漂う建築となっている。さらには道路や隣地に面した外壁は板張りとするなど、道行く人々や周囲に暖かい配慮がなされていて気持ちが良い。また、明るく開放的なデザインもさることながら、建物前面の植栽が施されたゆったりとした広場が駐車場や歩道と一体となっている事も一層開放感を際だたせている。

敷地周辺は、色々な形や色彩の建物があり、決してまとまった景観を造り出しているとは言えないが、少なくともこのリズムカルな建築でさわやかな通りが出現したと言っている。

(小草伸春)

優秀賞

出雲織・のき白鳥の里 /安来市

所在地 安来市沢町

事業主体 安来市

設計者 (有)ケーアイ建築設計安来支店

施工者 (株)田中建設

概要		敷地面積 3,791.44㎡	
管理棟	木造2階建	建築面積 132.27㎡	延床面積 143.86㎡
糸巻き場棟	木造平屋建	建築面積 44.00㎡	延床面積 44.00㎡
締め場・トイレ棟	木造平屋建	建築面積 75.85㎡	延床面積 75.85㎡
白鳥観察棟	木造2階建	建築面積 55.20㎡	延床面積 55.20㎡
農産物販売棟	木造平屋建	建築面積 80.75㎡	延床面積 80.75㎡
完成年月		平成16年3月	



本施設は安来平野のほぼ中央部、白鳥ロード沿いに立地し、安来地方の伝統的工芸である出雲織の工房や展示施設を有する農家風の古民家と、その東北部にある白鳥を見る木造の観鳥小屋の、主に二施設からなっている。古民家は同市内の山間部より移築したもののだが、赤瓦の鋷（しころ）をもつ萱ぶきで、風格のある建物である。

安来平野は四季折々に風景を変える美しい田園地帯であるが、その景観との調和が図られており、ずっと以前から存在していたような感じがする。

なお、本施設の北に接して、下水道処理場の大きな建物があるが、これも形態、色調等に配慮のあとが見られ、本施設との違和感を生じさせていない点も、併せて評価してよいだろう。

(藤岡大拙)

優秀賞

ブラハウス ワークステーション /大田市

所在地 大田市大森町

事業主体 (株)石見銀山生活文化研究所

設計者 (株)尾川建築設計事務所

施工者 (株)竹中工務店広島支店

概要 主屋 鉄骨造 平屋建 建築面積 781.25㎡ 延床面積 778.37㎡
 附属舎 木造 平屋建 建築面積 93.12㎡ 延床面積 93.12㎡
 完成年月 主屋 平成14年9月
 附属舎 平成15年1月



島根県のほぼ中央大田市街から銀山川に沿って約11km上がったところに、「石見銀山」の標識が目に入る。右折してしばらく走ると「石見銀山遺跡」に到着する。その途中に、大きなワークステーションがあるがあまりにも風景にとけ込んでいるため見逃してしまうほどである。新築でありながら、古材を多く使い、納屋やハデ小屋等で鄙びた趣を演出し、周りの景色に美しく納まっている。

県、大田市、温泉津町、仁摩町が石見銀山の「世界遺産登録」に向けて動き出す以前、施主は、およそ20年前から、寂れた大森の町を丸ごと何とか賑わいのある町に出来ないかと将来を見すえていた。地域の若い人達が生きいきとして仕事ができる場を提供すると共に、「田舎の暮らし」をコンセプトに、ファッションから生活用品まで幅広く手がけ全国に発信しつづけている。

大森の町が「国の重要伝統的建造物群保存地区」に指定され、徐々に江戸時代の趣を残した町に蘇った。

この建物とそれらを取りまく景観は施主の人柄、生きかたそのものである。
 (平本映子)

奨励賞

鷺浦の集落 /大社町

所在地 簸川郡大社町鷺浦

事業主体 大社町鷺浦地区

概要 総住戸数 147戸



海を背にして小さな漁港の集落が、小高い丘に向かってそう広くない横長の土地にギッシリ建っている。狭い私道や路地が入りくんでいるが、真っ直ぐでない道が冬場の強風をそらす工夫なのか。

古い時代（江戸末～明治）の家もいくつか残っていて往時の賑わいをしのばせる。空き家もいくつもあったが、風を入れる等の手入れがされているようで荒廃した影はない。住居の補修には白木に墨色を薄く塗った木材が使われ、それで統一されている。

また、何よりもインパクトがあったのが、立派な屋号が書かれた表札が玄関にかけられ、その表札故に玄関全体が立派に見えることだ。

何も特に新しいことをやらなくても充分よい家並みが保持され、大変心落ち着く雰囲気であった。代々住まいしてきて、生活に特に大きな支障がなければ、じっくり日々を送っていくことではないかと思うのだ。このようなたたずまいは今や消えて行きつつあるなかで、とても価値があると思えてくる。

小高い丘に上がってみると、海の色はエメラルドグリーン。一望する沖の風景はすばらしい。
(山谷裕子)

奨励賞

青木にじが丘 /八雲村

所在地 八束郡八雲村大字西岩坂

事業主体 八雲村

概要 開発面積 27,231㎡、35区画
平成11年秋分譲開始



何よりも、自然の地形を生かし、自然の樹木をそのままに生かした団地計画が評価された。

斜面地の宅地造成というと、地山を削って、盛土し、平らな宅地をつくるのが一般的である。盛土したノリ面は無粋なコンクリート壁で固められるのが相場である。ここでは、擁壁には、地山から出たのであろうか、大きな黄色っぽい岩がそのまま用いられていて、景観に彩りを与えている。この団地も低い方はコンクリートで固められている。ただ、崖の前には植栽が施され、コンクリート面を見せない配慮がなされている。

最も評価されたのは、団地の軸をなす登り階段部である。擬木はいささか気になったが、実に自然な心地よい遊歩道になっている。各戸へは塀をつくらずそれぞれの庭がうまくつながり一体化した半公共空間ができあがっている。この遊歩道沿いには住宅そのものも水準が高いものが多く、携わった建築家のセンスを感じることが出来る。また、住人のすばらしい植栽、ガーデニングを楽しむことが出来る。

(布野修司)

奨励賞

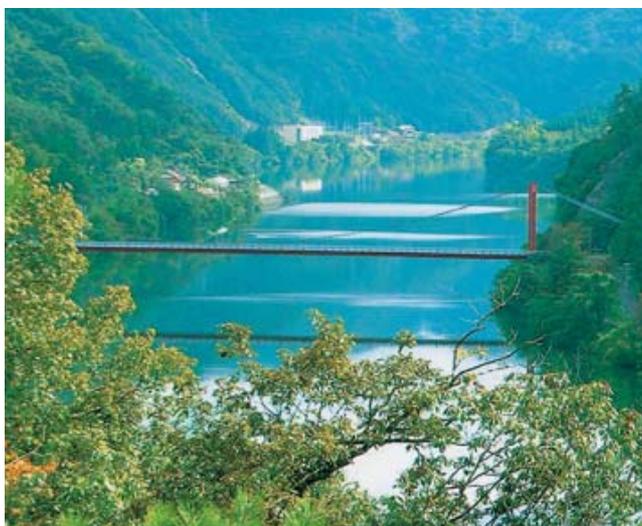
信喜橋 /美郷町

所在地 邑智郡美郷町信喜・潮

事業主体 美郷町

施工者 (株)鴻池組山陰支店

概要 橋長172.6m
支間長 149.0m、幅員 3.0m
平成12年2月再塗装



自然豊かな島根県中央部の山間を縫って流れる中国地方最大の河川、江の川。青々としたその川に架かり、現在美郷町となった旧邑智町と旧大和村を結ぶ信喜橋は、昭和54年に建設され、平成12年に真紅に塗裝修繕された最大支間長149mの吊り橋である。

現地視察を行った11月、天候に恵まれ、江の川の水量も豊かであったことから、真紅の信喜橋が水面に映る山々の紅葉と見事に調和していた。赤い土木構造物というが目立ち過ぎて、とかく周囲の景観と乖離しがちなものであるが、この信喜橋は、約150mもの径間の長さに比べ幅員が3mと極めて細いため、ことのほか繊細で控えめな雰囲気醸し出していた。このことは信喜橋を周囲の自然景観に馴染ませ、信喜橋がとけ込むその落ち着いた山あいの風景は受賞に値するといえよう。

(浅田純作)

奨励賞

江津道路 /江津市

所在地 江津市

事業主体 国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所
日本道路公団中国支社広島工事事務所

概要 江津市一浜田市間 14.5km
自動車専用道路（山陰道の一部）
完成年月 平成15年9月



道路周辺の空間がゆったりとして見える。伸びやかに連なる丘陵地の上に、広々と空が見渡せる。江津に向かってトンネルを抜けると、一気に視界が広がり、左斜め遠方に浅利富士（別名・室神山）、右手には柿本人麻呂ゆかりの高角山（別名・星高山、島ノ星山）がどっしりとした山容を見せ、左手下方には石州赤瓦の家並みが認められる市街地、そして、その先には遥かに日本海が続いている。「晴れやかな、眺めのよい道路」。近年、高速道路を利用して遠出をする機会が増えているが、江津道路を走った時のこのような印象は、なかなか際立ったものである。

建設にあたっては、検討会や見学会、植樹祭など住民参加の機会を多数設け、人麻呂にちなんで万葉集ゆかりの植栽を行うなど、地域と一体となった整備を進めてきたという。法面の大半が傾斜の緩やかな草地となっているのは、地層の脆弱さに対処したためというが、このことが先述した印象に大いに関わっていると思える。マイナス要因がかえって功を奏した格好である。また、走った時に見える道路周辺の景観及び遠景のみでなく、国道9号等からよく見える橋梁の桁色も、石州赤瓦の色を取り入れたもので、程よいアクセントとして周辺景観とマッチしている。

「高速道路」というと、普通、その必要性は別として、景観を含めた地域環境へのマイナスの影響が危惧されがちな存在であるが、様々な配慮とともに多様な地域の個性にも助けられて、印象的な景観と出会える道となっている。安全運転に留意しつつ、四季折々の石見の風情を楽しみながら走りたい道である。（八田典子）

奨励賞

宍道湖ネイチャーランド湖岸堤 /平田市

所在地	平田市園町
事業主体	国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所
設計者	財団法人シザキグリーン財団、(株)古川コンサルタント
施工者	(株)伏光組
特別協力者	NPO法人斐伊川流域環境ネットワーク(斐伊川くらぶ)、平田市立平田小学校、平田市立東小学校、平田市立榎山小学校、平田市立瀬分小学校、平田市立国富小学校、島根町立野波小学校
概要	堤防延長 約590m 引堤(ワンド)面積 3,800㎡ 木工沈床 約1,270㎡ ヨシ植栽(竹ポット) 約2,580本 完成年月 平成14年12月(ヨシ植栽 平成15年2月)



湖沼を縁どるヨシ原の風景は、陸地と水面を結ぶなくてはならない緩衝地帯として、かつてはそこここにあったはずである。しかし、今や宍道湖の大部分はコンクリート護岸で唐突に分断されている。

宍道湖の西岸で「宍道湖ヨシ再生プロジェクト」が始まったのは平成13年だ。

国土交通省出雲河川事務所が多自然型湖岸堤を整備し、「NPO法人斐伊川くらぶ」が手製の竹ポットにヨシの苗を入れて沿岸に埋める。多くの子もたちも参加しているという。ヨシの群生の復活とともに、シジミ、ゴカイ、小魚、エビ等が見られるようになり、魚の産卵場にもなってきたと聞く。

ヨシ原に羽を休める鳥たちの姿が見られる場所であり、近くに宍道湖自然館ゴビウスもあるので、環境学習の場としてもっと活用されてよい。

天気の良い日には、ヨシ原と湖面の遙か向こうに松江の街と嵩山、和久羅山、更には大山が眺望できる。やがて宍道湖西部のかけがえのないビューポイントになるであろう。

今後のヨシ原再生事業の一層の推進を期待したい。

(井上勝博)

奨励賞

海辺の多伎図書館 /多伎町

所在地 簸川郡多伎町大字小田

事業主体 多伎町

設計者 日建設計・三谷設計共同企業体

施工者 (株)中筋組

概要 鉄筋コンクリート造 平屋建
 建築面積 1,305.78㎡
 延床面積 1,180.07㎡
 完成年月 平成16年3月



ただの多伎図書館ではない。「海辺の」とつく、なんとも素直かつ明快に。そんな立地への思い入れがうかがえる建物だ。隣接する公民館とは、白い壁、赤褐色の石州瓦という共通性を持ち、景観にまとまりを見せる。その彩がまた、空と海の青によく似合う。

駐車場から外観を眺めたくらいでは、よさの半分もわかるまい。入口へとつながる緩やかな階段の下に立てば、ガラスの先に空が透いて見える。3段上がると水平線が現れ、4段目でようよう海原が。思わず、大きな窓が切りとる〈絵〉に向かって駆けだしたくなる。春夏は、そこに感涙ものの夕陽が浮かぶ。屋外に設けられたウッドデッキのベンチに座り、潮風潮騒にくるまれながら黄昏どきを楽しむなんて、リゾート気分さえはずむじゃないか。しかも、ところは國引きの〈綱〉の南端、辺りを染めるは「日本の夕陽百選」の茜色。島根の、胸をはって誇れる風景が見事に取りこまれているのである。

ガラス多用の外観が効力を発揮するのは、むしろ夜だ。明かりによって館内の展示物や動きがより鮮明となり、さらに人々を引き寄せる。とんがり屋根の照明は7時の閉館後、10時まで灯っているという。暗がりが続く国道9号線沿いに、町の目印がひとつ増えた。
 (伊藤ユキ子)

第12回 しまね景観賞

公共建築物部門 優秀賞

- 1 仁摩町生涯学習センター・仁摩図書館
事業主体／仁摩町

公共建築物部門 優秀賞

- 2 出雲織・のき白鳥の里
事業主体／安来市

民間建築物部門 優秀賞

- 3 ブラハウスワークステーション
事業主体／(株)石見銀山生活文化研究所

まち・みどり部門 奨励賞

- 4 鷺浦の集落
事業主体／大社町鷺浦地区

まち・みどり部門 奨励賞

- 5 青木にじが丘
事業主体／八雲村

土木施設部門 奨励賞

- 6 信喜橋
事業主体／美郷町

土木施設部門 奨励賞

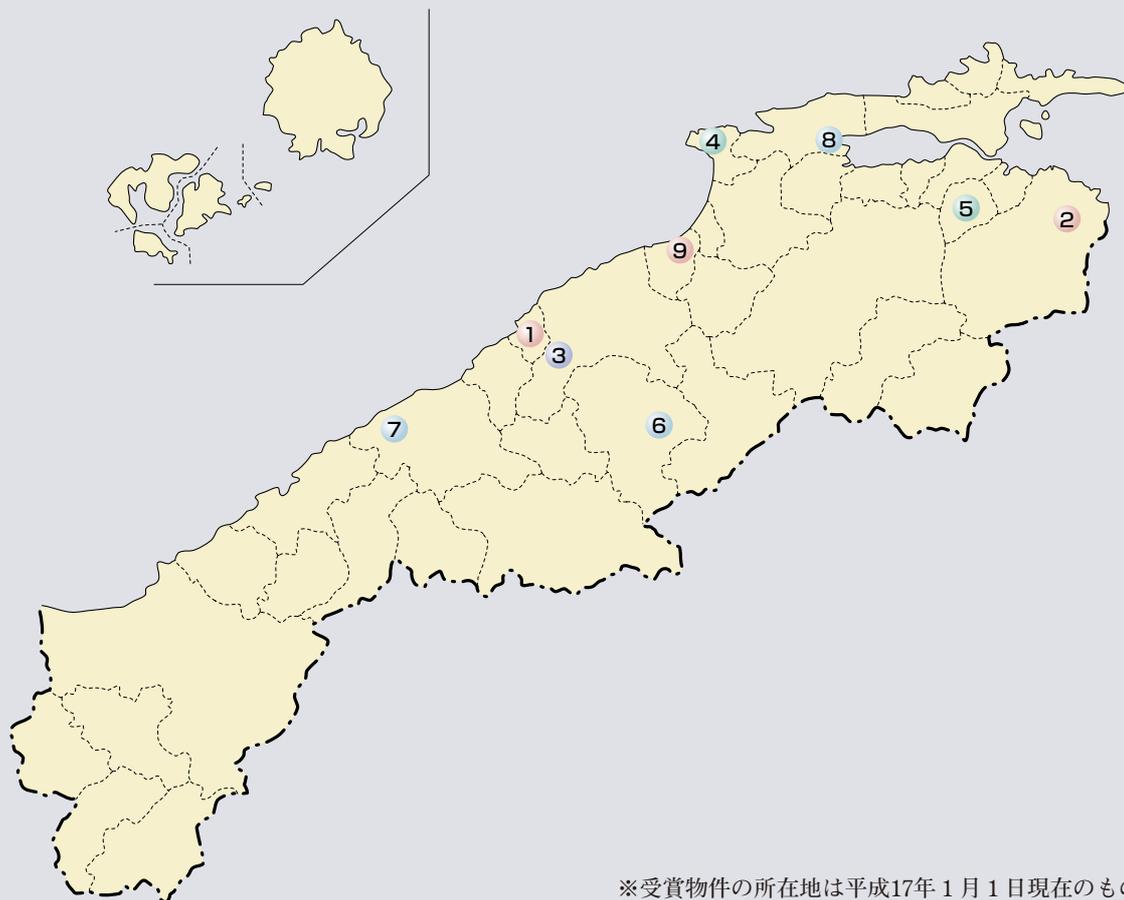
- 7 江津道路
事業主体／国土交通省中国地方整備局浜田河川国道事務所
日本道路公団中国支社広島工事事務所

土木施設部門 奨励賞

- 8 宍道湖ネイチャーランド湖岸堤
事業主体／国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所

公共建築物部門 奨励賞

- 9 海辺の多伎図書館
事業主体／多伎町



※受賞物件の所在地は平成17年1月1日現在のもの

平成16年度

第12回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

審査委員

- 浅田 純作 国立松江工業高等専門学校環境・建設工学科助教授
- 伊藤ユキ子 紀行作家
- 小草 伸春 □□島根県建築設計事務所協会会長
- 八田 典子 島根県立大学総合政策学部助教授
- 平本 映子 松江生活デザイン研究所主宰
- 藤岡 大拙 島根県立島根女子短期大学学長
- 布野 修司 京都大学大学院工学研究科助教授
- 山谷 裕子 画家
- 井上 勝博 島根県環境生活部長

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

審査経過

- 募集期間
平成16年7月1日(木)～9月2日(木)
- 募集結果
応募総数……126件
応募物件数…114件
- 第1回審査委員会(平成16年5月20日)
対象物、募集方法、審査日程、審査基準等の検討。
- 第1次審査(平成16年9月24日～10月12日)
応募書類、写真を基に第2次審査の対象となる34物件を選出。
- 第2回審査委員会(平成16年11月17日・18日)
選出された34物件・活動について現地審査及び最終審査を行い、9物件を選定。
- 表彰式(平成17年2月8日)
受賞物件の事業主体、設計者、施工者、特別協力者に対して賞状を、事業主体には副賞として銘板も併

第12回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

応募部門	物件名称	所在地
まち・みどり部門	出雲市駅前通り 玉湯町公営住宅 今津新集落 願楽寺のクロマツ 匹見町紙祖地区 わさび谷 ※鷺浦の集落 ※青木にじが丘	出雲市今市町 八束郡玉湯町大字林村 隠岐郡隠岐の島町今津 出雲市白枝町 益田市匹見町紙祖 簸川郡大社町鷺浦 八束郡八雲村大字西岩坂
土木施設部門	※信喜橋 ※江津道路 ※宍道湖ネイチャーランド湖岸堤 斐伊川水辺の楽校 柚の里よこみちふれあい広場 鹿島マリーナ 来島湖橋（飯石ふれあい農道）	邑智郡美郷町信喜・潮 江津市 平田市園町 仁多郡横田町大字大呂 鹿足郡日原町左鏡 八束郡鹿島町 飯石郡飯南町下来島
公共建築物部門	島根県花振興センター花ふれあい公園しまね花の郷 ※仁摩町生涯学習センター・仁摩図書館 やすぎ懐古館一風亭 旧山崎家住宅 弥栄村立弥栄小学校 ※海辺の多伎図書館 ※出雲織・のき白鳥の里 出雲文化工房 メゾン阿用	出雲市西新町 邇摩郡仁摩町大字仁万町 安来市安来町 邑智郡邑南町日貫 那賀郡弥栄村長安本郷 簸川郡多伎町大字小田 安来市沢町 出雲市浜町 雲南市大東町阿用
民間建築物部門	※ブラハウスワークステーション ワイルズ画廊 複合福祉施設「あとむ苑」 カフェ ヴィア・ボンテンピ 駅前温泉らんぷの湯	大田市大森町 大田市大森町 八束郡鹿島町大字北講武 松江市浜乃木 出雲市駅南町
個人住宅部門	斐伊川岸の住宅 佐田町の家 Kハウス	雲南市木次町下熊谷 簸川郡佐田町大字下橋波 出雲市大津町
工作物・その他部門	温泉津町サイン計画事業 秋葉のれい水 伯太川沿いの河川愛護活動	邇摩郡温泉津町全域 雲南市掛合町波多 安来市安来町

※所在地は平成17年1月1日現在のもの

受付順 ※は受賞物件

■表紙のご紹介

「日本風景選集 出雲美保ヶ関の朝」 1925（大正14）年 多色木版・紙 （島根県立美術館所蔵）

朝日が昇り、柔らかな光が冷えた空気を包み込んでゆく頃合いであろう。美保ヶ関の海辺に訪れたこのほんの数分の出来事を作者は、木版画の技法を使って画面に定着させている。そのおかげで私たちは、大正期のこの時間帯の美しい風景を知ることができるというわけだ。巴水は関東大震災で一度に失われた様々な事物を惜しみ、日本の原風景を残す版画を次々と制作していった。周囲に建物が増えたものの、平成の今もこの美保ヶ関の灯笼は現存し、私たちは当時の面影を知る事ができる。

川瀬 巴水（かわせ はすい） 明治16(1883)年～昭和32(1957)年

東京に生まれる。画家を志し、洋画と日本画を学ぶが、大正7年に伊東深水の木版画《近江八景》を見て版画への関心をよせ、1920年《旅みやげ第一集》を出版し、風景版画家としての地位を確立する。浮世絵版画の伝統を生かしつつ、洋風を加味した風景版画にその特徴がある。全国各地を旅しながら数多くの風景版画を発表し、海外でも高い評価を得ている。

